



日本老年行動科学会
Japanese Society of Behavioral Sciences for the Elderly

お知らせ No.29

<学会事務局>

〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内1-24-1

電話・FAX: 03(5941)5270

<学会ホームページ>

<http://www.soc.nii.ac.jp/jsbse/>

会議・催事のご案内

市民講座の日程が決まりました

本年度の新しい試みとして、一般の人々にも高齢期について理解を深めていただけるよう、市民講座を実施することといたしました。

このほど、その詳細が決定いたしましたのでご案内させていただきます。

対象は今まで高齢期や高齢者について学習したことのない一般の方々ですが、学会員の皆さまにももちろんご参加いただけます（申し訳ございませんが、会員割引等はございません）。

詳細は下記の通りです。

テーマ：「脳活&ハッピーエイジングしてますか？」

～高齢期をもっと元気で自分らしく生きるために！

会場：（第1回・2回とも）明治学院大学白金キャンパス 3号館1階・3203教室

参加費：2000円（1回につき）※当日会場にてお支払い下さい

日時・プログラム

<第1回>

日時：2010年6月26日（土）13:00～15:30（開場12:00）

プログラム：◇「ハッピーエイジング」してますか？

…佐藤 眞一（大阪大学教授、本学会会長）

◇ 介護のことを知ろう！

…米山 淑子（NPO生き生き介護の会理事長、本学会常任理事）

<第2回>

日時：2010年7月24日（土）13:00～15:30（開場12:00）

プログラム：◇「脳活」してますか？

…大川 一郎（筑波大学教授、本学会副会長）

◇ 認知症を知ろう！ …佐藤 美和子（桜美林大学、本学会常任理事）

※お申し込みは4月1日から日本老年行動科学会事務局で受け付けています。

詳細につきましては別紙をご参照ください。

第212回ACSのご案内

■会場：明治学院大学白金キャンパス 3号館1階 3203教室（東京都港区）

■日時：2010（平成22）年4月10日（土）15:00～17:00

■テーマ：「これからの高齢者ケアを考える—地域包括ケア—」

■講師：太田 貞司 氏（神奈川県立保健福祉大学社会福祉学科 教授）

■参加費：会員無料 非会員500円

※詳細・お申し込みにつきましては、別紙「ACSのご案内」をご覧ください。

2010年度 第13回全国大会（鹿児島大会）のご紹介（2）

全国大会の開催までちょうど5ヵ月となりました。鹿児島では着々と準備が進められています。それに合わせて、本「お知らせ」でも大会準備の様子や協力施設、鹿児島の魅力などについてご紹介してまいります。

全国大会協力施設のご紹介 ～社会福祉法人輪光福祉会～

○所在地：〒899-8101 鹿児島県曽於市末吉町岩崎971番地1

○理事長：山内大宣

○傘下の運営施設

- 特別養護老人ホーム 輪光無量寿園
- 輪光無量寿園デイサービスセンター
- 輪光無量寿園居宅介護支援事業所 等

○「輪光無量寿園」という園名の由来

輪光福祉会は、浄土真宗本願寺派、輪光寺というお寺が母体となって運営される、全国でも数少ない施設です。「輪光無量寿園」という園名は、輪光福祉会の母体となるお寺、輪光寺の寺号『輪光』（法輪の光、輝き）おみりのの、み光と浄土真宗三部経の中に出てくる「無量寿」（量ることのでき無い命）はかりしれない永遠のいのちの意を取り『おみりののちでいつまでも喜びあう人生に』という想いから”輪光無量寿園”と名付けられました。



輪光無量寿園 園長
山内 義宣 氏

○輪光福祉会のシンボルマーク

いつも元気で！いつまでも元気で！の「元」の字を人に見立て、心をもって接する！心と心のつながりを！という意味でハートが描かれています。



シンボルマーク

輪光無量寿園は前回（2002年）の鹿児島大会に先立ち鹿児島支部の設立に深くかわり、爾来、本会の団体会員として支部活動を支援いただいております。

大会実行委員からのご挨拶 「鹿児島へお越してください」

鹿児島で第5回全国大会が行われてから早くも8年の歳月が流れようとしています。

東北大学の川島隆太教授による記念講演やフェリーを借り切ったの交流会などが今でも思い出されます。

当時まだ工事中であった九州新幹線も来年春には全線開通し、皆様の地域と新しい線路で「つながり」ます。

そこで今回の大会テーマを『みんなでつなげる高齢者ケア』としてみました。

前回参加された方々はもちろんのこと、初めて参加される方にも気兼ねなく楽しみながら学べる大会にしたいと考え、大会実行委員は知恵を出し合っているところです。

鹿児島のシンボル『桜島』は今年絶好調で毎日のように噴煙を上げています。

おそらく皆様がお越しになる9月にも盛大な歓迎の噴煙を上げてくれることでしょう。

芋焼酎とともども鹿児島の醍醐味を存分に味わっていただけることとと思います。

ぜひ、鹿児島へ！



実行委員の皆さん

第13回日本老年行動科学会鹿児島大会実行委員 黒木弘

鹿児島Pick Up 鹿児島には温泉がいっぱい!

日本を旅する際の楽しみの1つに温泉を挙げる方は多いのではないのでしょうか。
鹿児島にも良質の温泉はたくさんあります!
学会の前後にぜひ足を伸ばしてみたいかたがでしょう。
数多い温泉の中から、今回は霧島温泉と指宿温泉についてご紹介いたします。

霧島温泉

霧島温泉はその名の通り、霧島連山の山麓に湧き立つ温泉です。大小様々な温泉地があり、それぞれに異なる泉質を持ちます。古来より多くの旅人が訪れてきました。

霧島は天孫降臨神話の地としても有名です。神々が天の浮橋から地上を覗くと霧の海の中に島のようなものが見え、それが霧島山の由来だといわれています。また、天上界から神が地上に初めて降り立ったのは高千穂峰だといわれています。

周辺には他にも多くの伝説の地が残っています。

他にも、今話題の坂本竜馬は妻おりょうと共に、寺田屋事件の負傷の療養と新婚旅行を兼ねて霧島を訪れています。

この旅は日本で最初的新婚旅行だったといわれています。

建国神話と日本の歴史に思いを馳せながら、温泉につかってみてはいかがでしょうか。



指宿温泉

指宿温泉と言えば砂蒸し風呂です。温泉の熱で50度程度に温められた砂の中に首だけを出して寝る姿はテレビなどでご覧になった方も多くでしょう。歴史も古く、300年以上にわたり全国的な知名度で愛されてきました。

特に明治から昭和の初めにかけては大変な人気で、歌人・与謝野晶子も訪れています。

また、2008年大河ドラマの主人公、天璋院篤姫ゆかりの地でもあります。

指宿今泉地区ではゆかりの地をめぐる散策コースも設けています。

指宿からは他にも池田湖、開聞岳など見所

たっぷりです。

フラワーパークなどの施設も充実しています。



鹿児島大会 基本情報

開催日時：2010(平成22)年9月3日(金)・4日(土)

会場：鹿児島県県民交流センター

(鹿児島市山下町14-50 Tel: 099-221-6600)

講演(基調講演他、現在予定の講師)

- 井形 昭弘 氏 (名古屋学芸大学 教授)
- 福永 秀敏 氏 (独立行政法人国立病院機構 南九州病院 院長)
- 鄭 忠和 氏 (鹿児島大学大学院 循環器・呼吸器・代謝内科学 教授)

イベント・催事

- ★ フェリーでの交流会(ジャンベ演奏ほか)
- ★ 鹿児島茶による接待(鹿児島は日本茶の全国4大産地の1つです)

休憩時間: お茶インストラクターによるお茶の接待

お茶弁当: お茶を使用して炊いた煮物や、鹿児島らしいお楽しみ弁当

- ★ その他、鹿児島を楽しんでいただくイベントを計画中です!

井上教授のコラムアーカイブ (9)

高齢者のただ1人の味方

～集団圧力と集団標準～

…中央法規出版「歳をとることが本当にわかる50の話」より

「歳をとる」とはどのようなことでしょうか。「認知症」とはどんな状態なのでしょうか。この学会に関心を示した皆さんは、既にそのようなことは経験的に、あるいは本などからの知識を得てよくご存知かもしれません。

でも、どんな状態になるかはわかっている、その背景となる心理はどうでしょうか。お年寄りを子ども扱いしたり、徘徊や盗癖などの問題行動を「認知症だから」で片付けたりはしていないでしょうか？分かっているようで実は分かっていないこともあるかもしれません。

このコラムでは、日本老年行動科学会の前会長で、現在は駿河台大学教授である井上勝也氏が、長年の高齢者研究の経験から、「水をほしがる人にパンを差し出すような見当違いの対応」が少しでもなくなるよう、高齢者の心と行動について語ります。

※なお、本連載は井上教授の許可を得て、過去に発表された文章を再掲させていただいています。

ある老人ホームでのことです。今年の敬老会でお年寄りを海の温泉に連れていくか、それとも山の温泉に連れていくかを決めるための会議が開かれていると想定してください。あなたは「海派」です。

最初は海派と山派がほぼ半々でした。しかし、議論を重ねていくうちに、紅葉もぼちぼち始まるなどということが決め手になって、山派がだんぜん優位になり、海派の意見に賛成する人は、あなた以外とうとうだれもいなくなりました。さてこのような場面に陥ったとき、あなたはどのようにするでしょうか。

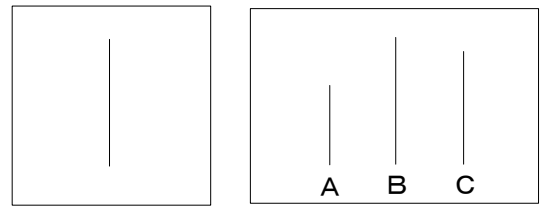
●集団圧力の実験

アメリカの社会心理学者、S・アッシュは「集団圧力」に関する次のような実験を行いました。

まず、たくさんの成人被験者が集められました。9人で1組になって、大きなテーブルを囲んで着席します。実験はきわめて簡単なもので、図のように、左側のボール紙の「刺激カード」に描かれた1本の線が右側のボール紙に描かれた3本の線のうちの「どれと同じ長さ」であるかを次々に回答する、というものです。

最初の被験者は見た瞬間に断固とした声と表情で、「Cと同じです！」と答えます。2番目の被験者も同じように、自信たっぷりの声と表情で「Cです。間違いありません！」と答えます。3番目、4番目、5番目…、みんなちゅうちょすることなく、Cと答えます。

刺激カード



さて8番目の被験者ですが、1番目2番目あたりの人が答えているときは「あの人たちはどうかしている。Bに決まっているじゃないか！」と思っていますが、3番目、4番目、5番目…、みんながCと答えているのを聞いているうちに、だんだん自信がなくなってきます。「みんなが一致してCというのだから、どうかしているのは自分のほうかもしれない。自分の見え方がおかしいのかもしれない……」。こうして自分の番がきたとき、この8番目の人は「Cです！」と答えてしまうのです。

もしあなたがこの8番目の人だとしたら、どうでしょうか。断固としてBだと答えるでしょうか。

●みんないっしょに

実はこの実験は、巧みに仕組まれた“インチキな”実験でした。8番目の人以外は全員実験者側のいわゆる“サクラ”であり、あらかじめ全員がCと答えることになっていたのです。もちろん8番目の人はそんなことは知る由もなく、みんな平等に試されているとすっかり信じていたのでした。

この実験では、8番目の人になった50人のうち、正しくBと答え、とことん“わが道を行った”人は26%に過ぎず、反対に74%もの人は、まさに自分が譲歩するほうを選んだのでした。

おそらくこの譲歩した人は（うすうすはおかしいと思っていたにしても）、多数は正しいという信念をもっていたり、みんなと違った答えを出してみんなから変に思われることを恐れたりしていたからなのです。このように、8番目の人の答えを譲歩させ、みんなに合わせさせたりする力（自分を疑ったり、みんなにみっともないと思われたくないとする考え）を「集団圧力」といい、みんなの一致した考えや判断（この場合、Cという判断）を「集団標準」といいます。

この集団圧力は、実はたいへん強力な力なのです。みんながいいというから、とか今はやっているからというだけで、たとえばA社のトイレットペーパーや衣類や化粧品や健康食品など、大して必要でないものを買ってしまったことのある人は、まさにこの集団圧力で“買わされてしまった”人です。また、みんなが渡るから、という理由で“赤信号”を渡ってしまう人や流行に弱い人、みんながよさそうだとする総理大臣や政治家を支持してしまう人などもそうなのです。トイレットペーパーから総理大臣に至るまで、そして先ほどの海山議論で結局最後には「まあ今年は山でいいわ」などと自分を説得してしまう人に至るまで、すべてこの「集団圧力」と「集団標準」に影響されているのです。

●ただ1人の味方

ところで、このアッシュの実験には興味深い続きがあります。先ほどの実験では、8番目の人1人だけが本当に“試されていた”人でした。しかし今度は違うのです。

先ほどのように、最初から3番目の人までは口をそろえて、「C」と答えます。しかし4番目の人は、「いや違います。私はBと同じだと思えます」と答えたのです！ さあ、8番目の人は、今度はどう答えるでしょうか。そ

うです、今度は8番目の人は俄然“強く”なります。断固として、Bであることを主張して譲らなくなります。これはいったいどんなことを意味しているのでしょうか。

人が集団圧力に圧倒され自信を失い譲歩するのは、その人がただ1人——「孤立」しているときだけなのです。反対に、自分の見方やサポーターが（ただ1人でも）いて孤立しなくなると、人はとたんに強くなり集団圧力になかなか屈しなくなる、ということの意味しています。

* * *

ところで、あなたの身近なところに、孤立しているお年寄りはいませんか？ だれにも目を向けられず、独りになっているお年寄りはいませんか？ こういったお年寄りは、集団圧力に圧倒されていつも自信がなくみんなの言いなりになって小さくなっているか、さもなければ集団圧力に圧倒されまいとして、むしろ頑固や意固地のよろいを着ているかのどちらかになっているものです。どちらにしても苦しく、不安に満ちた生活を送ることになってしまいます。

あなたは、そのようなお年寄りのただ1人の味方になっているでしょうか。ただ1人のサポーターになっているでしょうか。お年寄りが自信をもって心豊かに暮らしていくうえで、実はあなたがこの“4番目の人”になっているかどうか、とても重要な決め手になっているかもしれません。



井上 勝也 教授

「井上教授のコラム
アーカイブ」は
隔月掲載の予定
です。